

09/10/30

2009年10月30日

インドのジュート産業の現状

インドは世界最大のジュート生産国である。2007年のジュート類の生産量は214万トンで世界の全生産量の66％を占めている。（第二の生産国はバングラデシュの80万 トン）

インドではジュートは様々な用途で使用されており、織物、麻袋といった旧来の用途に加え、近年は環境対応素材という観点で自動車部品に使用されたり、ジオテキスタイルとして道路舗装、土壌保全、河川築堤などの用途で活用が始まっている。

ジュート産業の規模

インドのジュート産業は国家経済において必要な位置を占める。西インド、特に西ベンガル州においては主要産業の一つに数えられ、農家400万世帯、直接雇用26万人、関連雇用14万人を抱えている。インド国内のジュート産業は原料ジュートの栽培から紡績、織布、漂白、染色、仕上げおよび原料ジュート・製品のマーケティングなど広範囲にわたる。業界全体では種々の問題を抱えているものの、労働集約的であるジュート産業は、雇用創出産業として重要視されている。また、前年度は減少したもののジュートは年間100億 ルピー超の輸出があり、インドの外貨獲得にも貢献している。

インドにはジュートの複合工場が77あり、そのうち60工場は西ベンガル州に集中、そのほかにはビハール州、アーンドラ・プラデーシュ州、アッサム州、チャッティースガル州などに散在している。工場の保有形態をみると国保有6工場、州保有1工場、官民共有2工場、民間保有68工場となっている。

2008年1月時点で、インド国内のジュート産業には47,504台の織機があり、内訳はヘシアン織機23,955台、麻袋織機21,294台、C B C（カーペット裏地）織機1,148ほかとなっている。また、同時点の紡績錠数は国内向け工場が724,326錠のうち約85％がファインスピンドル、輸出向け工場が13,628錠のうち約76％がファインスピンドルである。国内向け工場のジュートの最大生産能力は256万 トン/年と推定されている。

輸 出

業界の調査によると、2008-2009シーズン（08年4月～09年3月期）のジュート製品の輸出額は106億6,100万ルピー（約2億3,400万 ドル）で、ルピー建てで前年比10％減、ドル建てで同20％減であった。

この金額ベースでの輸出減少傾向は最大輸出品目であるヘシアン織物が58％減となったことの影響が大きい。同じ金額ベースでも麻袋は54％増、麻紡績糸は2％増など品目によっては増加を記録している。

インド政府は当初、2008-2009シーズンのジュート製品輸出について、前年度比20％超の増加を目標としていたが、世界的な経済危機の影響によりジュートの国際取引が停滞したことで、結果的に目標額に対しルピー建てで75％、ドル建てで66％の達成にとどまった。

輸 入

2008-2009シーズンのジュート製品の輸入は、数量ベースで7.1万トン（前年比23％増）、金額ベースで20.3億ルピー（同47％増）となった。原料ジュートの輸入量は5.9万 トン（同66％減）、輸入額は8.9億ルピー（同55％減）となった。近年のジュート製品輸入の推移は次表の通り。

近年のインドのジュート輸入実績

単位：1000トン、1000万ルピー

	04-05		05-06		06-07		07-08		08-09	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
原料ジュート	85.98	89.97	136.22	189.77	94.36	150.31	171.80	196.72	59.04	89.00
ジュート製品	32.17	70.74	77.02	175.56	60.93	171.63	57.69	138.09	70.94	202.99
合 計	118.15	160.71	213.24	365.33	155.29	321.94	229.49	334.81	129.98	291.99
前年比(%)	0.4	22	80	126	-27	-11	48	4	-43	-13

最近の動向

ジュート産業からの強い要望を受け、最近インド繊維相は「国のジュート政策は状況の変化に応じて柔軟に見直されるべきである」と述べている。すでに繊維省は国家繊維政策作成ワーキンググループにジュート産業に関するサブグループを設置しており、繊維相は「サブグループに参加するすべての関係者はインドのジュート産業のあらゆる側面を考察し、ジュート産業の成長と発展に資する長期的な政策を提言する必要がある」としている。

インド政府は2005年に国家ジュート政策を発表し、それ以降供給能力の拡大は落ち着いたが、現在ではむしろ供給不足の状況に転じている。例えば、インド国内の食料用穀物の調達に使用されるジュート製袋の消費量は2年前には150万 ベール規模であったが、現在では240～250万ベールに拡大しているという。こうした状況のなか、繊維省は中央政府よりジュート産業が実需に応じた供給体制を構築するよう再三要請を受けている。

一方、繊維省はジュート産業に対し、紡績糸および織布設備の近代化と製品の付加価値向上のための素材混用を通じて、新世代のコスト競争力に富み高機能のジュートおよびジュート製品を開発するよう要請している。更に、汎用および新規の包装資材のプロモーションの必要性も示唆している。食品用ジュート袋はインド国内外でココア豆、コーヒー豆、ナッツなど多種の食品の包装用に使われ、今後も消費の拡大が期待されているが、一方で「ジュートの生分解性や環境にやさしいという性質を強調し、従来型の包装用途への依存から脱するべきだ」と新たな方向性を提言している。

現状ではインドで高品質で最適コストのジュートを生産するためには設備の近代化が必要である。これまで政府は既存政策に基づき近代化設備の開発に2.8億 ルピー、工場が新鋭化された設備を購入するための補助金として8億ルピーを拠出してきた。繊維省は現行のジュート産業に対する支援スキームのうち、設備購入に関しては「補助金のキャップ」がネックになっていると自認しており、その点を改善するため財務省と交渉し、1工場あたりの補助金を700万 ルピーから3,500万ルピーに拡大する意向である。

政府はすでにジュート産業を集積する7つの工業団地の設置を打ち出しているが、用地の移管が進まず、計画は頓挫している。繊維省は西ベンガル州政府に対し工業団地の開発が迅速に進むよう働きかけている。

また、政府はジュート産業育成政策に準じてジュートに関する交易所の設置を進めており、農家から加工工場への原料ジュートの受け渡しコストの低減を図る意向である。西ベンガル州Chapadangaとアッサム州Kharupetiaの2つの交易所はすでに完成、開所している。また、西ベンガル州ナディア地区のBethwadoriとKarimpur、同州のKaranojor、Katwa、アッサム州のKaliborの交易所は2009年度中に完成の予定である。

インドではジュートベースのジオテキスタイルの腐食防止、分離、フィルター、灌漑、土壌補強などの分野での利用拡大を狙っており、すでにいくつかの州で拡大規模での試用が行われている。繊維省はそうした分野でのジュート製ジオテキスタイルの使用拡大のためには、積極的なキャンペーンが必要と考えており、近く総額400万 ドル規模の予算で国際的なジュート関連機関との共同によるジュート製ジオテキスタイルのテスト、規格作り、プロモーションなどに取り組む予定である。

インド政府は国営企業National Jute Manufacturers Corporation Limited (NJMC)を官民のパートナーシップで再生することを計画しており、応分の予算を計上している。これにより、プリント、漂白、染色、デザインなどのすべての工程を統括し、国内で生産されるジュート製品の拡充を図る意向である。